

野田川地域認定こども園（仮称）整備に係る保護者説明会
での質疑応答集（第2版）

令和6年3月
与謝野町

一人でも多くの方々と共有することで、野田川地域認定こども園（仮称）整備についての御理解をいただきたいので、令和6年に開催しました保護者説明会等における質疑応答集を作成しました。

他の御意見等がございましたら、別紙の御意見等記入用紙に、御記入の上、各園の御意見ボックス又は子育て応援課に御提出をよろしく申し上げます。

【質疑応答集】

1. 新こども園建設について

Q 1 資料の概算整備費用の中に山田保育所の解体費用も含まれているのか。
山田保育所の閉園後は解体するのか。

A 1 山田保育所の解体費用は含まれていません。山田保育所の解体についても、現在未定です。

Q 2 山田保育所の敷地面積は。

A 2 山田保育所の敷地面積は約3,400㎡、建物面積は1,069㎡です。
石川保育所の建物面積は993㎡、のだがわこども園の建物面積は1,105㎡です。

Q 3 新園舎の建物面積は。

A 3 かえでこども園、つばきこども園の建物面積と同規模程度と考えていますが、今後の人口推移等から、定員数等を算出し過大な施設とならない施設整備を目指します。

Q 4 新園舎の耐用年数は。

A 4 50年程度を見込んでいます。

Q 5 長寿命化改修した場合、現在の施設はどれくらいもつか。

A 5 直ちに、長寿命化改修工事を行い、20年後に大規模改修工事を行うことで、40年～50年程度、建物の寿命を延ばすことは可能と考えます。

新築と長寿命化改修を比較検討した結果、改修は1園ずつ計画的に行う必要があること、改修期間中、園児は他園に転園することになり、環境変化に伴う園児及び保護者の負担が増えること、費用面、現施設の改修では教育・保育ニーズを満たすクラス編成や年齢相応の生活様式が配置できないことか

ら、新園舎整備が有効であると判断し、長寿命化改修は行わないこととしました。

なお、建物を長寿命化していく場合は、建築から20年毎に大規模な改修工事を行い、普段からの保守を行いつつ施設を維持管理する必要があります。

Q 6 試算で比較検討されたのか。

A 6 大規模改修工事は、3園で約4億6千万円、長寿命化改修工事は、3園で約11億1千万円、新園舎建築費は、約11億2千万円と試算しています。

Q 7 建設予定地の交通事情で他の候補地より良かった点は。

A 7 駐車場が確保でき、各地域区毎に通園ルートに分けることで一定交通量を分散できると考えています。

災害面では、過去、石川地域が大雨時に冠水することがありましたが、近年、園庭を含め園舎への被害は確認しておりません。野田川改修により、河川の保水力も向上しており、災害時における送迎ルートも確保可能と考えます。

Q 8 用地を取得してからでないと思設計できないと思うがどういう順番で進めていくか？また取得して登記、予算計上、設計となるとスケジュールが大丈夫か。

A 8 スケジュール（案）に沿って速やかに進めていきたいと考えています。令和9年度中の開園を目指しますが、令和9年4月開園は難しいと考えます。

Q 9 地域間格差とありますが、個人的には、かえでこども園・つばきこども園を選択することが可能であり、格差は特に感じていない。

A 9 各地域に新設のこども園を整備する計画を進めており、岩滝地域・加悦地域は計画達成していますが、野田川地域だけが未達成となっています。

子どもたちが教育・保育を受ける施設環境に地域間格差が生じていると考えています。

Q 10 新園舎は平屋建てか。2階建てか。

A 10 水害等を考慮し、垂直避難ができる建物構造を検討しています。かえでこども園は一部2階建て、つばきこども園は高台にあるため平屋建てとなっています。

Q 11 運営方法について、民設民営、公設公営で職員は変わるのか。園舎も先生も変わるとなると園児にとって負担が多くなり、親としては公設公営を希望する。

A 11 公設公営を基本として考えています。保護者の声として受け止めます。

Q 12 整備費に備品購入費も含まれているのか。

A 12 つばきこども園の整備費には、下駄箱、ロッカーなどの一定の必要備品を含んだ整備費となっていました。現在、使用しているものでも使えるものは

引き続き使用し、机やイス等の保育備品の不足分については、別予算で計上したいと考えています。

Q13 新園舎の名称はどのように決まるのか。かえでこども園やつばきこども園は旧町の町木が採用されている。

A13 かえでこども園、つばきこども園の名称については、名称を公募し、選考委員会での審査を経て決定しました。今回も同様の方法で、公募を行い、選考委員会で決定していきたいと考えます。

Q14 新しい園舎を楽しみにしているが、新園舎に通わせることができない（卒園）方には、関心が低いのではないか。

A14 卒園される園児の保護者にとっては、関心は低くなることは承知してはいますが、すべての保護者に対し、説明会資料、保護者からの意見Q Aを配布し情報を提供しています。

未来の利用者向けの説明として、1歳半検診、野田川子育て支援センターの利用者に対して、説明会を実施しています。

Q15 現在の園は古いが、楽しそうに生活している。今の保育を踏襲してほしい。祖父母の中には、財政を心配する声を聞く。

A15 現園舎の良いところ、教育・保育については、新園舎においても踏襲したいと考えます。

こども園建設費については、町の未来を担う子どもたちが将来負担することになるため、しっかり算出していきたいと考えています。厳しい財政状況ではありますが、町の基金（貯金）も増え、借金も減っており、十分コントロールできる財政運営だと考えています。

物価が上昇しており、建設を遅らすことで、費用が更に嵩む可能性があると考えており、令和9年度中に完成を目指していきたいと考えています。

Q16 野田川グラウンドに建設することは考えられないのか。

A16 候補地として協議した経過があります。現状、社会教育施設として使用していますが、災害時における仮設住宅の建設地、自衛隊の拠点、災害ゴミの集積地とした利活用を考えていること、また、地域生活の場所から孤立しており、防犯面から候補地として上位の位置付けになっていません。

現在の候補地は事業所等もあり、地域住民が住んでいる場所にこども園があることは、色々な気付きや地域の方との関わり等が子どもたちの成長にとってよい影響を与えるものと考えます。

Q17 建設予定地に事業所が入っているが、立ち退きはされないのか。

A17 移転いただくことは考えておりません。

Q18 能登半島地震の影響もあり、材料が高騰しているのでは。

A18 建築工法、補助金の活用等により、費用を抑制していきたいと考えています。

Q19 町長の任期中に施設整備について全て決定することは可能か。

A19 任期は令和8年4月までとなっています。議会で関連予算の同意をいただく必要がありますが、財政の担保、調整、見通しを立てていきたいと考えています。

Q20 計画（案）のスケジュールに遅れが出ることはあるか。

A20 現状、計画（案）のスケジュール通りに進んでいます。来年度、用地の不動産鑑定を行い、地権者に価格を提示し交渉を進めていきたいと考えます。
令和9年度中の開設を目指し、現在、町の整備方針・計画（案）にご理解いただけるよう説明を重ね、意見を伺うことに注力しております。

Q21 計画（案）は、決定の方向で進んでいると思うが、中止、延期、変更の可能性はあるのか。

A21 計画（案）の段階であり、物価高騰の中での材料価格の変動や震災による人材不足等も考えられ、延期等の可能性がないとは言い切れませんが、適正に進めていきたいと考えています。

Q22 新園舎の設計に関して、ある程度どういう物を建てるのか決まっているのか。今後どのように相談しながら決めていくのか。

A22 設計については有識者、先生や保護者の意見も反映させていきたいと考えています。
新園舎の設計段階において、かえでこども園、つばきこども園と同様に、要望や意見等を協議いただく保護者を含めた整備推進のための会議体を立ち上げることとしています。

Q23 整備計画（案）が正式に決まるのはいつか。計画が遅れると山田保育所との統合も延期になるのか。

A23 今年度中に（案）が削除できるよう進めていきますが、正式に決まるのは予算成立後になると考えます。用地買収については、決定ではありませんが、地権者に一定の理解は得ています。
統合が遅れることはないとは言い切れませんが、できる限り計画通りに進めたいと考えております。

Q24 山田保育所、のだがわこども園での保護者説明会での反応は。

A24 石川保育所の保護者と大きく変わらない反応です。
場所が遠くなることへの不安であったり、転園に伴う園児の環境変化への対応を心配する意見をいただいています。

2. 既存の施設・既存のこども園・保育所の体制等

Q 1 山田保育所に統合後の開園時間（早朝、延長）は。

A 1 現在、石川保育所・山田保育所の開園時間はどちらも7時30分～18時30分までとなっています。令和7年度、石川保育所と山田保育所の統合・こども園化移行に伴い、開園時間は7時30分～19時までとなります。

Q 2 現在、石川保育所で早朝保育や土曜保育を利用しているが、山田保育所でも同じ利用ができるのか。また、通所の際、交通渋滞などは大丈夫か。

A 2 山田保育所でも、同様に利用いただけます。

こども園に移行しますと、閉所時刻が19時までとなり、今よりも預かり時間が30分長くなります。

通行に関しては、できる限りの安全対策を図ります。基本的には、消防車庫の駐車場に車を止めて、徒歩で園まで送迎いただくこととしています。早朝・延長保育の時間帯は門扉まで上がっていただくことができますが、その際は園舎の外周に沿って一方通行にご協力をお願いします。

3. 新こども園の体制等

Q 1 つばきこども園は12月開園となり、年長児は3か月間の在園期間となったが、今回も開園時期が前後することはあるのか。

A 1 令和9年度中の完成を目指しますが、詳細時期は未定です。かえでこども園やつばきこども園の経過から、令和9年の秋・冬頃になるのではと想定しています。

開園時期については、保護者意見を伺いながら決定していきたいと考えています。

Q 2 教育・保育ニーズを満たすクラス編成や年齢相応の生活様式とは。

A 2 与謝野町では幼児クラスの人数は、1クラス15人～20人が適正規模であると考えています。

かえでこども園・つばきこども園では、全年齢のクラスを2クラス体制で教育・保育できる保育室を設けており、また保育室の間仕切りを解放することで、年齢ごとの園児交流や合同保育等が可能な設えとなっています。

全年齢2クラス体制ができる保育室の配置、各保育室から園庭やホールへの動線や各保育室へのトイレ配置等が利用者のニーズを満たすクラス編成であったり、年齢相応の生活様式だと考えています。

野田川地域の3園では、「未満児棟の保育室が不足していることから、幼児棟に未満児クラスを設置している。」「未満児クラスのトイレが設置できない、クラスから離れた場所にある。」等が現施設の改修では、解消することが難しいと考えています。

Q 3 山田保育所と石川保育所の統合時、新園舎への統合時、職員数は減るのか。

A 3 保育士は園児の人数により配置しています。

現在3人いる園長は最終的には1人となりますが、統合により職員を減らすことはありません。町では国基準を上回る職員を配置しており、引き続き、町基準での職員配置を行い、安心安全な教育・保育を実施していきます。

Q 4 小規模な園を希望される保護者もおられると思うが、大規模園を建設することによりそのような保育ニーズが満たされないのではないのか。

A 4 町内には民間法人による幼稚園、認可外保育園及び小規模保育園が運営されています。現在、認可取得に向け動いておられる保育園もあります。

家庭の事情によっては、お住まいの地域ではない町立園や民間の教育・保育施設も選択していただくことも可能です。

大規模園のメリットの1つとして、たくさんの子ども達の中で育つことで、色々な人がいることを知ったり、考える力、学ぶ力、人に合わせる力などがつくと考えます。

Q 5 新園舎整備後に土曜日の1日保育を検討するとあるが、かえでこども園・つばきこども園でも1日保育となるのか。また、整備できないと検討を始められないのか。

A 5 職員配置の関係で、時期や実施する園等を今後検討していきます。以前から連合保護者会より土曜日の1日保育について要望をいただいております。新園舎による3つのこども園整備後に実施していきたいことを回答しています。

Q 6 新園舎になることでより良くなることは。

A 6 多様な空間構成とその動線、安心・安全を備えた現代の生活様式にあった園舎となります。また、子どものクールダウン室や子育て支援室を設けたり、自然の中で発見や学びができる園庭にしていきたいと考えています。

Q 7 維持管理が大変だと思うが、園庭を芝生にするのはどうか。全面ではなくても一部芝生にするなど。最近では裸足で外を歩く機会があまりなく、安全も大事だがアクロバティックな動きができるような園庭にしていきたい。

A 7 検討したいと考えます。

Q 8 2階部分に園児が利用する保育室等を配置するのか。

A 8 通常、園児が利用しない、職員の更衣室や会議室を配置することを考えています。

Q 9 園児数について、現在250人となっている、180人定員で全員入園できるのか。入れない場合は他市町に行くことになるのか。

A 9 開園予定の令和9年度の野田川地域の園児数は200人程度と見込んでいます。180人定員でも保育士を配置することで、216人までの受け入れは可能です。保育基盤としては、町立3園と民間のこどもの森保育園、加悦聖三

一幼稚園の5園で支えていきたいと考えています。

Q10 設備も古くなってきており、新しくすることも大事であるが、同時に、人員配置や職員待遇も手厚くして欲しい。町は、国の基準よりも手厚くしていると言っているが現状は。

A10 国基準では、子ども30人に対し、保育士1人を配置することとなっていますが、町では子ども20人に対し1人の保育士を配置しています。また、必要に応じて補助職員や、加配保育士を配置し、国基準を上回る職員を配置しています。与謝野町では、保育士の配置人数だけでなく、各種研修等による保育の質の向上に積極的に取り組み、子どもに寄り添った教育・保育に努めていただいています。

4. 交通について

Q1 送迎ルートはどうか。

A1 地域別に送迎ルートを設定すること、町道改良等を考えています。専門家等の意見も聞きながら、動線も含め、安全対策を検討していきます。ルート案ができ次第、保護者意見等も伺う機会を設定したいと考えています。

Q2 利用者が多くなると送迎時に渋滞するのではないか。

A2 現在ものだがわこども園には121名の園児が在籍していますが、近隣住民や生活道路として利用する方に支障となる渋滞は起きていないと認識しています。送迎ルートを地域毎に分けることで交通渋滞は回避できるものと考えていますが、送迎ルートは、保護者、地域住民の意見を参考にしながら、宮津警察署等、関係機関と協議することとしています。

Q3 石川保育所前の町道が渋滞しているイメージがある。

A3 現状、駐車場が少なく、町道に縦列駐車し送迎されています。町道の改良等は今後、建設課と協議することとしています。

Q4 幾地在住だが、交通事情を心配している。送迎ルートはどう考えているか。

A4 現段階ではお示しできませんが、地域、保護者の意見を参考にしながら、各地域毎の送迎ルートを宮津警察署等、関係機関と協議の上、設定したいと考えています。

5. 災害等による安心・安全について

Q1 その他の課題とは何か。

A1 駐車場が敷地内に確保できるのか、鳥獣等の進入、騒音等の周囲の環境面を検討しました。

山田保育所や、のだがわこども園は山に近く、園庭にシカが進入してきたり、蜂やヤブ蚊も多く、アレルギーや皮膚が弱い子にとっては、好ましくない環境面があると考えています。

Q 2 災害に備えた備蓄倉庫はあるのか。園児分の防災用品は備蓄されているのか。

A 2 現在のだがわこども園に備蓄倉庫はありませんが、米・水、おむつなどの必要最小限の備品をストックしています。なお、野田川庁舎や四辻地区公民館に毛布、簡易トイレ、水、食料等が備蓄されており活用できます。

今回の能登半島地震を教訓にして、ライフラインが途絶えた際の保護者への連絡方法等も園で検討していきます。

新園舎においても、一定の災害用備品をストックしたいと考えています。

Q 3 店舗の周りが死角になりそうだが、フェンスなどはできるか。

A 3 店舗の周りを駐車場にすることを検討しており、必要に応じてフェンス等の設置を考えております。

6. 説明会等について

Q 1 保護者は、こども園建設についてどのような反応か。

A 1 これまでの説明会では、建設に対し、特に大きな反対意見はなかったと受け止めています。建設中における石川保育所の園児が転園になることについては、園児、保護者に負担をお願いすることになり、今後も丁寧な説明に努めます。

Q 2 保護者としては賛成意見が多いと思うが、反対意見はどういったものがあるのか。

A 2 保護者からは、財政面、交通及び水害等を心配する声はありましたが、大きな反対の意見は聞いておりません。

住民説明会では、財政ワースト2位となっている中、今建てる必要があるのか、交通問題、災害等の対応を含め、場所に対する不安や少人数の保育所を残してほしいといった声をいただいています。

Q 3 野田川子育て支援センターを利用した時に今回の説明会があることを聞いた。他の0歳のお子さんを持つ保護者にもこの話を聞いてもらえるよう広報してほしい。こういう機会があるとありがたい。

A 3 野田川子育て支援センターで説明会をするのは今回で2回目です。また乳児健診時にも説明会を実施しました。

今後も、広報や対話の場を作っていきたいと考えます。

Q 5 住民説明会をするのか。

A 5 野田川地域の各区民を対象に説明会を実施していきます。

7. その他

Q 1 これまで閉園した園で、閉園式後の保護者行事はどのようなことをされていたのか。

A 1 式典は町で行いますが、式典後に、保護者会主催でお楽しみ会や記念植樹の行事をされていました。

Q 2 閉園行事の予算は。

A 2 行事に対して、町からの補助金等はなく、保護者会費等で運用されたと記憶しています。閉園記念誌を作成される場合は、事業費の1/2を補助します。

Q 3 子どもが発熱した場合など、子どもを迎えに行かないといけませんが、祖父母が行く場合、チャイルドシートがなくて迎えに行けない。

A 3 各家庭に都合があると思うので、迎えに来てもらえるまでは、園で責任持ってお預かりします。

Q 4 先日積雪した際には、のだがわこども園前の町道は除雪が入らず、運転が危なかった。

A 4 積雪量の関係から今回の町道除雪は、国・府道よりも遅れて除雪が開始されました。石川保育所へのアクセスは国道がメインであり、町道よりも早い段階で除雪されると考えています。

Q 5 用地について、図面の囲われていない部分については今後取得する予定なのか。

A 5 囲われていない部分は、既に事業所があり取得は考えておりません。事業所の所有者には、こども園整備を計画していきたいことを説明し、ご理解いただいています。

Q 6 財政面について、積立金や国府からの補助金で30%増を見込んでいるのか。

A 6 財政状況について、新聞でワースト2位と報道されましたが、4つある財政指標の内の1つ実質公債費比率が全国ワースト2位となっています。

実質公債費比率とは借金の割合のことで、1位の夕張市は67%を超えており、与謝野町は17.2%となっています。合併後の下水道整備費の借金返済によるものが大きな要因ですがピークは迎えており、他の指標はいずれも国の基準を下回っています。

町の借金は過去最少額となっており、町の貯金である基金も約46億円を積み立てており、町民に過度な負担を強いることなくこども園整備ができる財政状況だと考えています。

物価高30%増となっても財政健全化と施設整備に対する投資の両立化はできると考えており、国の支援を活用しながら財源獲得を行うことで、30%増も吸収できると考えています。

Q7 子どもが減少している中、コミュニケーションのやり取りの中で成長させたいという園長先生の言葉が印象に残った。野田川地域の保育所・こども園は集約されるが、小学校の再編はいつになるのか。

A7 加悦地域のこども園、小学校の再編は同時期にできましたが、野田川地域は児童数の減少は緩やかであり、小学校再編は令和12年度以降の検討となっています。

園舎の老朽化の進行や、子どもたちの安心・安全を考え、小学校の統合を待つことなく、こども園整備を先行することを決定しました。小学校の再編時期は、教育委員会で議論がまとまり次第、考えをお示ししたいと考えています。

Q8 私の子どもは、統合により山田保育所を利用することになると思うが、そんなに遠くはないので、あまり不安もなく、予定通り進めばいいと思っている。

岩滝地域、加悦地域だけ新園舎となり地域格差ができるから、野田川地域にも新園舎を建てるのか。5年前の説明会では、岩滝地域は公営で、加悦地域と野田川地域は民営化を検討するという説明を受けたが、運営方式は。

A8 5年前の説明では、民設民営を検討する方向にあることを説明していましたが、野田川中央施設での新園舎建設が白紙撤回されたと同時に、民営化も白紙に戻しました。

現状、公設公営を基本として考えていますが、民設民営、公設民営方式も含め、検討中であり決定はしていません。

その他意見

●子どもの環境の変化に気を使っただきありがとうございます。大人が思うより子どもは適応能力があるのでそこまで心配していません。

●山田保育所で植物を育てているので、統合しても続けてほしいです。

●自分は3~4クラスあるような大人数の中で育ってきた。夫は10数人の少人数で育ってきました。話をしているとそれぞれに良い面があると思います。

大人数では、自分と気の合う友達と出会える機会が増え良いと思う。大人数でも少人数でもよいと思います。

●野田川地域の認定こども園建設について、保護者間の反応は賛成の方が多いと思います。自分がこの園に通っていて、その時から何十年、安全面等が進歩していないように思います。不審者情報が増えてきているのでセキュリティ面が気になります。

●園は自宅から近い方がよいと思いますが、現在の園の老朽化、子どもの安心・安全を考えると新園舎に賛成です。

与謝野町子育て応援課宛て

野田川地域認定こども園（仮称）整備への
～御意見等記入用紙～

新園舎整備に対するみなさまの御意見等を自由にお書きください。

<意見等>

() について

※ 御意見等の内容を確認させていただく場合がありますので、差し支えなければ、下記区分等を御記入ください。

（提出された方への問い合わせのみに使用し、公表はいたしません。）

区 分 (○をつけてください)	10代未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
住所又は所在地	
氏名又は名称	

<問い合わせ先>

与謝野町子育て応援課

所在地 与謝野町字加悦 433

番 号 0772-43-9024

F A X 0772-42-0528

Email kosodateoen@town.yosano.lg.jp